

環境担当による 出張授業、環境出前講座の実施

青木 勝美

自然の博物館には環境担当があり、寄居町にある川の博物館に駐在してさまざまな業務を行っています。今回はその中で、出張授業、環境出前講座の実施について紹介をします。

I 出張授業の実施

要請のあった学校には、出張授業を行っています。分野は、環境についてだけではなく、学校の授業（教育課程）に合わせた内容も実施しています。



砂場での「流れる水のはたらき」の実験

特に、依頼の多い単元は小学校5年生の理科「流れる水のはたらき」です。浸食、運搬、堆積のはたらきと、それによってできるV字谷、扇状地、三角州などを学習します。その後、用意した砂山のところに行き、浸食、堆積の予想をしたところに旗を立て、水を流し変化を観察します。続いて、水の量を増やし、違いを確認します。合わせて災害についても考えます。



本物の化石にふれ、喜ぶ児童

また、小学校6年生の理科「土地のつくりと変化」についても依頼が多くあります。泥岩、砂岩、礫岩、石灰岩、凝灰岩を観察し、違いを学びます。博物館所有の化石に触れるとともに、でき方を考えます。その後、カラーサンドと小麦粉を使い、地層のでき方の実験を行います。

どの内容も児童のみなさんは熱心に、そして楽しく授業に参加してくれます。

II 環境出前講座の実施

今年度より、新たに「環境問題を考えるパネルトーク&ワークショップ講座（環境出前講座）」を始めました。参加した方が講座をとおして環境について考え、それによって意識を高めてもらうことを目的としています。

テーマは、「招かざる訪問者～外来種と生態系」と「今、水がピンチ～川の水質汚濁」です。環境の日に因んで6月1日に自然の博物館で、10月19日に県立総合教育センターの一般公開で



ワークショップでの水質検査

実施しました。18枚のパネル、3体の剥製を展示し、見学者に解説をしました。

また、時間内に4回、パネルトーク&ワークショップを行い、より環境問題を身近に感じてもらいました。来年度も多くの方に環境問題に関心を持っていただけたらと考えています。

これからも、学校や地域との連携が深まるように教育普及活動に取り組んでいきます。

(あおき かつみ・担当課長)